



国名	マラウイ共和国 (Republic of Malawi)
面積	118,484平方Km (日本の約1/3)
人口	1,760万人 (2016年, 国家統計局)
首都	リロングウェ
独立	1964年7月6日
公用語	英語, (国語: チェワ語)
政体	共和制
大統領	ピーター・ムタリカ

**Homepage** www.japan-malawi.org  
**Email** info@japan-malawi.org  
**Facebook** facebook.com/japan.malawi  
**Twitter** twitter.com/JpMalawi  
**YouTube** Malawi Society of Japan

日本とマラウイ両国間の理解を深め、文化、スポーツ、経済、科学技術等の協力を通じ、相互の繁栄に寄与することを目的とする任意団体。1983年2月26日設立。

◆モザンビーク・サイクロンIdaiによる被害◆



3月14日にアフリカ南部を直撃したサイクロン「アイダイ」による死者が急増している。被害の大きかったモザンビークのセルソ・コレイア土地・環境・農村開発相は23日、同国での死者数が242人から417人に増えたと発表した。これにより、被害を受けたモザンビークとジンバブエ、マラウイでの犠牲者数は約700人に達した。ジンバブエではこれまでに少なくとも259人、マラウイでは56人が亡くなったと報告されている。死者数は今後も増える可能性がある。一方で国連は、最終的な死者数は洪水が完全に引いてからでないと確定できないと指摘した。 BBCニュースジャパン (2019年3月25日)

【日本マラウイ協会 Malawi Society of Japan】



入会ならびに会費納入のお願い

当会は、会員が納入する会費により運営を行っております。会の目的、活動内容に賛同される方々のご入会、会費納入をお願い申し上げます。

ホームページからお申込みいただく方法が最も簡単ですが、集いなどの受付でもお申込みいただくことも可能です。

※年会費のオンライン支払はホームページをご参照ください。

区分	入会金	年会費	備考
正会員	1,000円	3,000円	
賛助会員	0円	1,000円	郵便物の送付なし
団体会員	3,000円	10,000円	公的・非営利団体
法人会員	10,000円	30,000円	協賛企業

方法	口座など
銀行振込	三菱東京UFJ銀行 東恵比寿支店 (普) 255739「日本マラウイ協会事務局 貝塚光宗」
郵便振替	ゆうちょ銀行 〇一九店 (ゼロイチキウ店) (当) 0013125「日本マラウイ協会」 ゆうちょ銀行送金: 口座番号00190-7-13125



駐日マラウイ共和国・GKMバンダ大使からのメッセージ

～ ウォームハートのマラウイと日本を結ぶ起業家求む! ～



I have been in Japan for 2 years and 4 months since my arrival to take up my diplomatic post as Malawi's Ambassador. First, I was encouraged by the speed with which the Government of Japan processed presentation of my Letters of Credentials to His Majesty Emperor Akihito of Japan.

I will fail in my reporting if I do not include the developments Malawi has gone through after my predecessor; Ambassador Reuben Ngwenya posted an article in this Kwacha Magazine in 2012. Malawi's economic development lies on principles of inclusive leadership of His Excellency Professor Arthur Peter Mutharika, President of the Republic of Malawi. Malawi has from 2014 seen steady rise in infrastructure development in road bituminization, airport expansion, diversification of crop production and exploration of minerals such rare earth, uranium, niobium, coal, bauxite and many more. The Government of Malawi has put these minerals on the table for prospective investors for consideration.

This reassured me of the cordial and close relationship that exists between Malawi and Japan. One of the memories that came to my mind was the huge human resource capital that Malawi Government has received from Japan, through Japan Overseas Cooperation Volunteers (JOCV).

Although on a very small scale, I am pleased to mention that at the moment, there are three ex-JOCVs who import from Malawi and sell in Japan products such as coffee, honey and baobab oil whose demand is high. I am in this regard extending this opportunity to others to invest in Malawi by bringing the processing industries for value addition. Big businesses you see in Japan today started with individuals like you. Be an entrepreneur with products from your second home, Malawi, the Warm Heart of Africa, in Japan the other Warm Heart of Asia. Thank you. (H.E. Grenenger K.M.Banda)

From 1971, Malawi has received a total of 1,793 Japanese Volunteers working in all sectors of the economy. These volunteers have tremendously added value to the socio-economic development of Malawi. So far, there are two former Japanese Ambassadors and a number of other diplomats who have worked in Malawi who are also a source of my inspiration and my personal advisors in time of need when I seek better understanding of Japanese traditions and culture. Both categories now form the Malawi team and we work together as colleagues and Ambassadors for Malawi in Japan. Some of these personalities are current members of the vibrant Malawi Society of Japan (MSJ).

For the past two years I have been in Japan, Malawi Embassy and Malawi Society of Japan have celebrated together in July as 'NSIMA PARTY' and Independence Day Anniversary for Malawi. During such occasions, Malawians and the Japanese community refresh their memories of their stay in Malawi and discuss projects that they were involved in or continue to be involved with. I therefore call upon all the ex-JOCVs to Malawi to join the society where we all belong as a family.

《部分訳》私が大使として着任して2年4か月が経過しました。マラウイと日本の両国は、長期間、多くの海外協力隊の隊員が派遣されてきて、さまざまな分野で支援が行われていますが、マラウイも、特に、2014年にムタリカ大統領以降、インフラの整備、その他の産業の振興を進めているところです。近年、協力隊OBの方々が農産品(コーヒー、ハチミツ、パオバブオイル)を日本へ輸入するビジネスを開始されていますが、とても心強く思っています。ぜひ、アフリカとアジアのウォームハートの国を結ぶ起業家として活躍されませんか?

「協力隊まつり2019」(4/20・21(土・日) JICA地球ひろば)に出展しました。



日本マラウイ協会は本年も、「協力隊まつり2019」に出展し、世界各国へ派遣されたボランティアらとともに、「協力隊の世界」、各国事情、文化の紹介などを行い、マラウイに興味を持つ方々と交流の場を持ちました。今回、協力隊バングラデシュOB(中島敏氏/前海上保安庁長官)、ウガンダOG(山口真緒氏/パラリンピック支援)の2名の方を迎えての講演、「クロスロード」の上映など、多くの魅力的なプログラムに、多数の来場参加者が訪れ、情報交換が行われました。



# TICAD7開催記念「マラウイを語る集い2019」を 8/31 (土) JICA地球ひろばで開催します!

## SDGsと豊かな将来に向けた果敢なる挑戦 Conquering Quest for SDGs and the Prosperous Future



日本のイニシアティブで3年おきに開催されてきたTICAD（アフリカ開発会議／前回の第6回は2016年ケニアのナイロビで開催）の第7回会合が、本年8月28日から30日まで、横浜市中区で開催されます。アフリカ各国の首脳をはじめ、数多くのVIPが来日され、政治、経済をはじめ、さまざまな現代がかかえる諸問題や、将来の取り組みについて討議されます。野口英世賞（アフリカの医学研究、医療活動において顕著な功績を挙げた方々が対象）の表彰式も予定されています。

### 開催趣旨

TICAD7開催を記念して、SDGsや新たな時代の要請や方向性を考慮して、広範な両国の関係強化と実効性の高い成果を指向して、基調講演、パネル討論、公募・招待による発表、展示、アトラクションなど、密度の濃い交流の場を提供します。

### 開催概要

日時	2019年8月31日(土) 10:00~18:00
会場	JICA地球ひろば 国際会議場他(2階)
主催	日本マラウイ協会
開催テーマ	SDGsと豊かな将来に向けた果敢なる挑戦
プログラム	基調講演 TICAD7記念シンポジウム 若者・教育セッション 東京オリパラ2020スポーツシンポジウム ライブ音楽ステージ 懇親会(シマを食べる会)

### 発表募集 (締切: 7/20)

分類	仕様	非営利	ビジネス
口演	15分	0	30,000円
	30分	-	50,000円
展示	1.8m幅	0	10,000円

### 参加案内

日本マラウイ協会主催「マラウイを語る集い2019」を、8月31日(土)、JICA地球ひろば(東京都、市ヶ谷)で開催します。TICAD7に参加されるマラウイのVIPにこの集いに参加いただき、私たちとの交流の場を作りたいと考えて、この日程としました。

2019年にTICAD7、2020年に東京オリンピック・パラリンピック、そして2021年に日本からマラウイへ協力隊派遣50周年を迎えるこのタイミングで、未来志向のテーマ「SDGsと豊かな将来に向けたたゆまぬ挑戦」(Conquering Quest for SDGs and the Prosperous Future)を掲げて、多面的な分野(政治・経済・スポーツ・芸術)の優れた発表の場を提供し、情報交流・人的交流を深めます。懇親会では、多くの在日のマラウイ人留学生、大使館関係者らを迎えて、シマ(現地の主食)を食しながら交流を深めます。参加者数は200名を見込んでいます。この集いが、TICAD7にふさわしい、有意義で印象的なものとなることを確信しております。

<https://japanmalawiforum2019.peatix.com/>

### 参加料金 (締切: 8/20)

分類	会議	懇親会(シマを食べる会)
一般	2,000円	3,000円
会員※/学生	1,000円	2,000円
アフリカ出身者	0	1,000円

※賛助会員(年会費1,000円)の方も会員割引が適用されます。



## 「新春の集い2019」 開催しました。(1月27日)

駐日マラウイ大使館バング大使ご夫妻にご出席いただき、当会主催の新春の集いを1月27日、JICA地球ひろばで開催しました。当会の事業報告のほか、マラウイで活動を行った筑波大学の日本マラウイ学生団体・呉様、横浜市水道局・石井様の発表をいただき、活発な情報交換が行われました。



マラウイ大使館バング大使、日マ協会吉田理事、学生団体呉様、横浜市水道局石井様



## ～ 草薙康子さん、ルイ・ンテンダさんの共同研究～ マラウイ派遣JICA海外協力隊

(青年海外協力隊員、シニア隊員、シニア海外ボランティア、JICA短期ボランティア) **OB・OGの方へ!**

### アンケートのお願い



草薙さん

当会理事の草薙康子さん(東京大学客員共同研究員・世界銀行コンサルタント)と会員のルイ・ンテンダさん(日本在住マラウイ人研究者)は、日本学術振興会の科研費「挑戦的研究(萌芽)」の支援のもと、「アフリカのボランティア事業で支援側・被支援側双方のキャパシティは向上するか」というテーマの研究を行っています。



ンテンダさん

この研究では、マラウイに派遣されたJICA海外協力隊経験者からのアンケート回答をもとに分析が行われます。皆様のご協力をお願い致します。



[research.net/r/volmalawi](https://research.net/r/volmalawi)

## 初来日マラウイ人留学生歓迎レセプション を11月23日(金)に開催しました。

駐日マラウイ共和国大使館主催、当会共催で昨年11月23日、JICA地球ひろばで「初来日マラウイ人留学生歓迎レセプション」を開催し、日本の殺陣パフォーマンス、柔道世界選手権報告、学生たちのスピーチ、懇親会を行いました。



## 協力隊OBの岩田麻央さんの マラウイの絵本・クラウドファンディング

**目標の311%達成で終了されました!**  
「マラウイの教育の一助に」と岩田さん。

2018年10/25~12/25の2か月間実施のクラウドファンディングで支援者125名、金額155万9千円を集め、終了されました。手数料などを除いた全額「20万7160円」をマラウイ協会を通じて、マラウイの教育に役立つ支援をしてほしいと、日本マラウイ伊協会へ申し出をいただきました。

## マラウイの実話 に基づく映画

## 『The Boy Who Harnessed the Wind』(原題)

日本でも  
**8月封切決定!**

### 原作和名: 「風をつかまえた少年」

2001年、マラウイを大飢饉が襲う。図書館で出会った一冊の本をきっかけに、自作の風力発電で人々を救った14歳の少年の奇跡の実話の映画化。第86回アカデミー賞作品賞受賞『それでも夜は明ける』主演をつとめたキウエテル・イジフォー監督のデビュー作であり、本人も出演。2019年8月2日、本邦公開予定。

提供: アスミック・エース、ロングライド、配給: ロングライド。

<海外版> <https://www.imdb.com/title/tt7533152/>

